

令和 8 年熊本地震 球磨川堤防調査委員会（第 1 回）

1. 日時：令和 8 年 8 月 18 日（木） 15:00～17:00
2. 場所：八代河川国道事務所 1 階会議室
3. 出席者

委員長 安福 規之	九州大学 名誉教授 (地盤工学)
委員長代理 上久保 祐志	熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 教授 (河川工学)
委員 石原 雅規	国立研究開発法人 土木研究所 地質・地盤研究グループ 土質・振動チーム 上席研究員
委員 瀬崎 智之	国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長（代理：三好 朋宏 主任研究官）
オブザーバー 脇中 康太	熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 准教授 (地盤工学)

(敬称略)

4. 議事概要

○委員長及び委員長代理の選任等、オブザーバー出席の確認

委員の互選により委員長を安福委員、委員長代理を上久保委員に選任するとともに、規約に基づき、三好国総研河川研究室主任研究官の代理出席が認められた。

また、規約に基づき、脇中熊本高専准教授のオブザーバー出席を確認した。

○令和 8 年熊本地震の概要と被災の全体像について

令和 8 年熊本地震の概要と河川管理施設の被災状況、応急復旧状況を事務局より説明。委員より、河川管理施設の点検状況及び堤内地側の被災状況についての確認があった。現在も地震動が活発であることから、引き続き河川管理施設の点検を行い、被災状況の確認を行う旨を事務局より説明。

○平成 2 8 年熊本地震での対応の振り返りについて

平成 2 8 年熊本地震での白川・緑川における被災状況と本復旧工法、並びに、令和 8 年熊本地震での変状について、事務局より説明。委員より、平成 2 8 年熊本地震で対策した箇所は今次地震での対策効果の整理方法について、以下の意見を伺った。

- ・対策を実施している前後区間で一部に変状が見受けられる状況のため、当時実施した対策区間と未対策区間の地盤特性等の関係を分析することが重要。
- ・前回の地震で対策を行った箇所について、地震動を確認することが重要であり、前

回と今回の地震動の性質を整理した上で、被災状況の違いや問題点を分析・整理すること。

○緊急災3箇所の概要とハード・ソフト対策について

令和8年熊本地震により大きな変状が確認された球磨川右岸 6/200～450、8/000～040、球磨川左岸 8/540～580 での変状の概要及び緊急復旧工事の実施状況、並びにソフト対策の実施状況を事務局より説明。委員より、以下の確認があった。

- ・右岸 8/000～040 の被災箇所付近は、デザイン検討委員会で議論された箇所であり、今回の地震を受けて、今後変更の予定・修正等あれば、別途教えてほしい。

○土研・国総研視察を受けた対応について

7月30日に実施された土研・国総研による現地視察内容及び原因究明にあたって実施する地質・地盤調査計画を事務局より説明。委員より、地質調査計画について以下の意見を伺った。

- ・旧河道部は、基礎地盤から深度方向に 1.0m 毎の標準貫入試験でなく、0.5m 毎に実施し密に試験を行った方が良い。
- ・液状化に関しては、地下水位が重要となるので、無水掘りが望ましいが、少量の水で掘った場合は作業終了時に孔内洗浄を行い、翌朝、地下水位が落ち着いた状態で計測を行うこと。
- ・地質調査の項目や数量は、不足なし。
- ・6k0 右岸の被災箇所については、低水護岸の傾きが急になっているように見えるため、横方向川側への移動を止めるような構造の有無を確認すること。
- ・堤防縦断面図を作成し、縦断的な変状（変位）や局所的な沈下等を確認する。
- ・H28 熊本地震での緑川・白川では、しっかりとした調査が実施されており、今回の地震でも、どのようなデータが有効になるのか、今後のためにプラットフォーム化していくことが重要である。
- ・対策工の考え方は、前回の平成28年熊本地震での白川・緑川の考え方を踏まえ、堤体の変状の大小により閾値を設け、対策工法を決定するよう検討を行うこと。
- ・新技術を用いた調査方法等の活用について、検討を行うように助言があった。

○今後の予定について

第2回以降の開催予定及び内容について事務局より説明

- ・次回は、9月中の開催を目標としている。

(以上)

【委員会様子】

